



THE CABIN COMPANY

CO-OP OITA REPORT 2023

コープおおいたレポート

〔生活協同組合コープおおいた基本理念〕

『安全・安心、豊かな暮らし』

一人はみんなのために、みんなは一人のために

組合員のくらしや地域社会でうまれた課題解決に向け、事業と活動をととして社会的な取り組みを推進しています。人と人の結びつきを大切に、地域のくらしを支え、コープおおいたのある街に住んでよかったと思っていられるような存在でありたいと願っています。

CO-OP=Co-operative

生協はよりよいくらしを願う消費者一人ひとりが組合員となって参加し、出資、利用、運営する協同の組織です。営利を目的とせず事業を行う、自主的な消費者団体です。

〔コープおおいたレポート2023 編集方針〕

コープおおいたは事業と活動をととして、地域のくらしと社会をよりよくするためにCSR活動(企業の社会的責任)に取り組んでいます。コープおおいたレポート2023では、「コープおおいた2030年ビジョン」を指針とし、SDGs(持続可能な開発目標)との関連性を共に伝え、主な取り組みを抜粋してご報告いたします。

対象期間:2022年4月～2023年3月

〔表紙イラスト〕

表紙は、大分県在住の絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」による「多様性」と「コープおおいた2030年ビジョン」をイメージしたオリジナル作品です。



CONTENTS

基本理念	P2
トップメッセージ	P4
大分県と16市町との包括連携協定のあゆみ	P5
コープおおいた2030年ビジョン	P8
事業案内	P10

特集

特集1 創立70周年を迎えました	P14
特集2 小規模多機能ホーム にじいろ下郡	P16
特集3 40年以上、組合員とつながり続ける五清同志会	P18

トピックス

環境	P24
リサイクル活動	P27

コープSDGs行動宣言

2015年、国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。コープおおいたも世界中の人々と共にSDGsの実現に貢献することを約束し、全国の生協と一緒に「コープSDGs行動宣言」を掲げています。



組織概要 (2023年3月31日時点)

創立 / 1952年(昭和27年)12月
代表者 / 代表理事 理事長 青木博範
組合員数 / 183,612世帯(世帯加入率37.6%)
出資金 / 72.06億円
総事業高 / 191.9億円
供給高 / 宅配117.6億円 店舗71.8億円
福祉事業収入 / 2.3億円
従業員数 / 247名(正規職員)、545名(定時職員)
本部所在地 / 大分県大分市青崎1丁目9番35号
事業エリア / 大分県全域
グループ会社 / (有)ヒューマック大分
(株)コープハウジング大分
(株)コープサービスおおいた
(株)コープキッズおおいた
(株)ハートコープおおいた
(株)夢ファームおおいた

トップメッセージ

これまでも、これからも
共に助け合い、
時代の変化に対応する
コープをおいたへ



組合員のみなさんをはじめ、いつも「安全・安心」な商品を届けていただいている生産者、取引先のみなさん、そしてさまざまな形でコープをおいたを支えていただいているみなさん、いつも大変お世話になっています。ありがとうございます。

昨年、創立70周年を迎えました。宅配事業、店舗事業を中心に、登録組合員数は18万世帯を超え、県内の世帯加入率も40%近くになりました。

私たちはこれまで、組合員の声に耳を傾け、その思いや願いをお伺いし、事業やサービスを通して、実現してきました。いま、その組合員の声は地域の声につながっていると考え、県内各地の自治体と「地域包括連携協定」を締結し、地域が抱えるさまざまな課題に、自治体や地域の諸団体と連携して、解決に取り組んでいます。4月現在、大分県と16の市町と締結することができました。共通しているのは、子育て支援、高齢者支援、買い物弱者支援、そして地域産業の振興による活性化です。

私たちがめざしている「安全・安心、豊かな暮らし」を実現するための課題と同じです。

全国の生協では、他の協同組合（農協・漁協・森林組合など）や友好団体、地域住民のみなさんと連携、協力しながら「誰一人取り残さない、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」に取り組んでいます。

これは、2030年までに達成する持続可能な開発目標「SDGs」の一つです。この目標を達成するには、多くのみなさんの共感と協力が大切です。それが「目標17. パートナリシップで目標を達成しよう」につながります。

競争の時代から、共に助け合い、協力し合う、「共創」の時代へと変化していきます。その変化に対応していくために、私たちは、地域を思うみなさんをつなぎ合わせる「プラットフォーム」になれるよう取り組んでいます。今後とも、よろしくお願いします。

生活協同組合コープおいた
代表理事 理事長 青木 博範

これまでも、これからも地域とともに 大分県と16市町との 包括連携協定のあゆみ

2013年より、大分県と16の市町と各分野の関係団体、事業者、大学などと包括連携協定を締結しています。地域社会の一員として、役割と責任を果たすため、多様化するくらしに対応する事業展開とともに地域が抱えるさまざまな課題の解消と持続可能な地域社会を目指しています。



締結自治体と 締結年

2017年 杵築市
2017年 臼杵市

2017年 日出町
2017年 豊後大野市
2017年 大分県
2018年 日田市
2019年 大分市

2021年 玖珠町
2021年 由布市
2021年 別府市
2021年 津久見市
2021年 九重町

2022年 宇佐市
2022年 竹田市
2022年 中津市
2023年 国東市
2023年 豊後高田市

実際に協定のもと実行していること



災害支援

令和2年7月豪雨より物的支援に加え、人的支援も開始しました。被災地で作業、炊き出しなどを行っています。有事の際には自治体や団体からの要請に迅速に対応できるように、「災害支援先発隊」（通称CODRA）を編成し、平時から研修などを積み重ねています。



地場産品の販売

大分空港内では(株)コープサービスおいたがテナントショップとして「ぶんごの空」を展開しています。大分県の空の玄関口として地場産品の販売の役目を担っています。

ウクライナ支援

2022年2月24日から始まったロシア軍のウクライナ侵攻により、大分県内に避難された避難民のみなさんへの支援を開始しました。



コープおおいたの人道支援における考え方

- コープSDGs行動宣言にある「誰一人取り残さない、誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現」に寄与するため
- 大分県および別府市ならびに日田市と締結している包括連携協定に批准すること
- 生協は「平和とよりよい暮らし」を願い、「一人は万人のために、万人は一人のために」の助け合いの気持ちを大切に活動している組織であること

以上の考え方により

1 食料品・生活物資支援



日田市に避難している1家族には、宅配事業のカatalogを見て商品を選んでもらい、食品を提供しました。



別府市に避難している12家族に対して、来日から3カ月間コープ別府店で食料品や日用雑貨を自由に選び、お買い物をしていただきました。



コープおおいたのお取引先へ支援物資のご提供を呼びかけ、鶏肉など、多くの取引先から支援をいただきました。

2 生活支援金の募金活動・贈呈

2022年3月14日から7月22日までの間に緊急支援募金を開設し、ユニセフおよび大分県内に避難している方へお送りしました。

募金実績

【ユニセフ募金】(3月14日～7月22日受付) 14,731,968円
【大分県内へ避難された方々への募金】(5月9日～13日受付) 1,876,807円



3 交流会



2022年5月25日、コープ別府店で別府市、日田市に避難している避難民の方同士の交流会を開催しました。ウクライナの方が作るウクライナの郷土料理とコープおおいたの惣菜部門が作るウクライナ料理を囲み、にぎやかな会となりました。



2022年7月10日、ウクライナ駐日大使セルギー・コルンスキー氏がコープ別府店を訪れ、別府市、日田市に身を寄せる避難民の方々との意見交流を行いました。「行政と民間が連携して、支援いただくスキームを作ってくれているというのは前例がありません。ありがとうございます」とお言葉をいただきました。

4 就労支援(ネイルサロン)

日田市に避難しているネイリストのイリナ・ボンダレンコさんをコープおおいたの青崎本部事務所に招き、月に1回、3日間程度のネイルサロンを開きました。従業員やお取引先の方を中心に、好評をいただき、日本での生活を支える一助となりました。

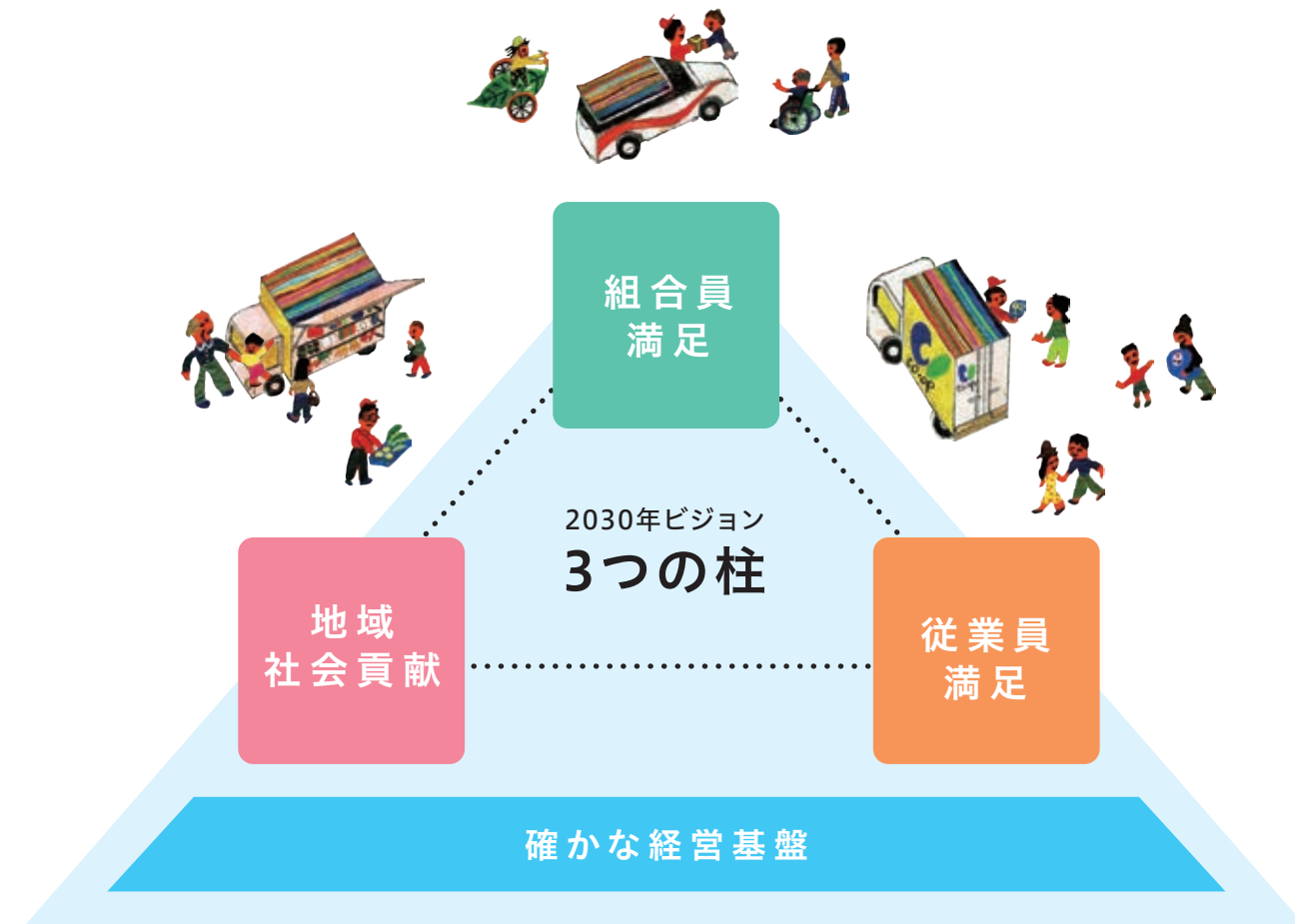


2030 ViSiON

コープおおいた2030年ビジョン

みんなの暮らしに**満足**を！
～ここであらう、コープがある。～

2030年の自分を、家族を、大分を、そして世界を想像しながら、
毎日の暮らしが今より満足であるように。
その笑顔のそばに、いつもコープおおいたがあるように。



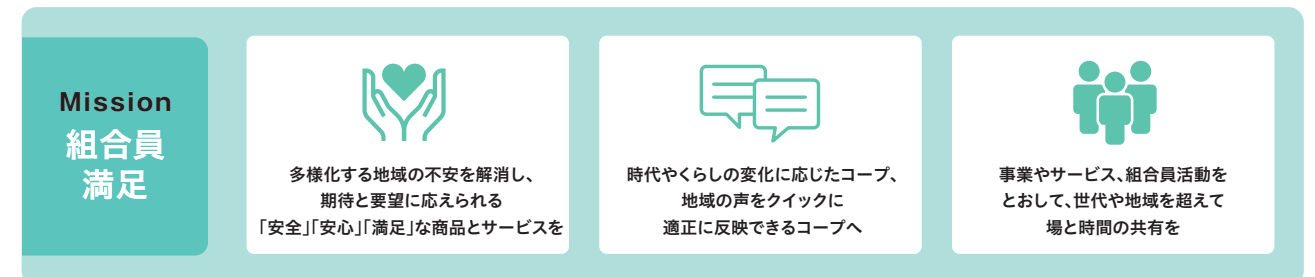
10年後のありたい姿

生協は協同の心を大切に、社会問題の解決や公平な社会システムの実現のために活動しつづけてきました。今までもこれからも、地域でくらすみんなが満足し、笑顔あふれる社会を実現していきます。人と人のつながりを大切に、誰一人取り残さない持続可能な地域社会を見据え、コープおおいた2030年ビジョンを掲げます。私たち“みんな”の新たな10年間ははじまっています。

人とつながる、地域とつながるコープ



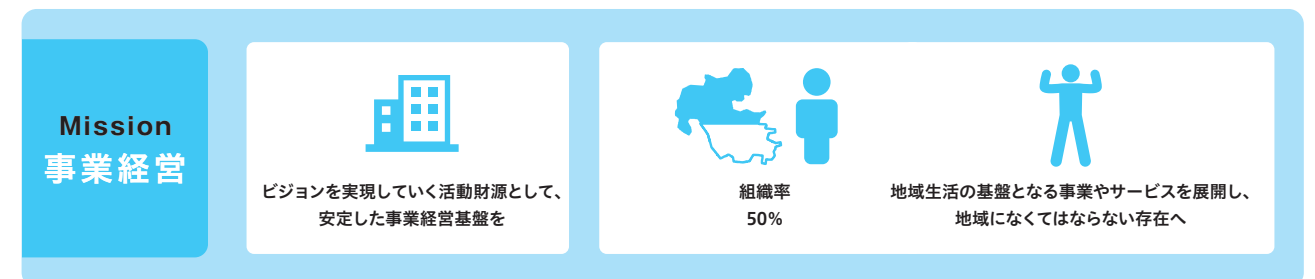
暮らしに役立ち、寄りそい、支え合うコープ



自信と誇りを持って、安心して働きつづけられるコープ



みんなが安心して、確かな将来設計ができるコープ



「コープおおいた2030年ビジョン」では
より詳細な行動目標などの情報を紹介しています。
コープおおいた2030年ビジョン <https://www.oita.coop/2030vision/>



事業案内



宅配事業

信頼される商品を、心を込めてお届け。

山間部や一部離島を含む大分県内全域で、共同購入・個人配達・法人配達を展開しています。徹底した品温・品質管理のもと、ご注文商品をご家庭や施設にお届けしています。毎日の配送をとおして、地域や高齢者の見守り活動も担っています。

共同購入

ご近所にお住まいのお友だちやお知り合いを誘って3名以上のグループを結成し、指定の配達場所に週に1回、決められた曜日と時間に注文商品をお届けします。週に1度のコミュニティの場にもなり、宅配のベーシックな利用方法です。



個人配達

週に1度、決められた曜日と時間にご自宅へ注文商品をお届けします。ライフスタイルの変化や利用者のニーズに応えた利用方法です。

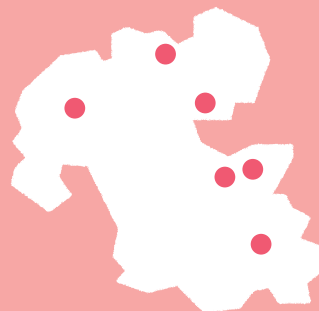


法人配達

大分県に許可された福祉・教育施設などへ食材や雑貨・消耗品をお届けします。商品を一括で注文することが可能となり、施設の従業員さんの業務軽減にもつながっています。



— センター —



- 日田センター
- 宇佐センター
- 日出センター
- 畑中センター
- 二目川センター
- 三重センター



店舗事業

来るときには楽しみを、帰るときには喜びを。

コープおおいたのお店は県内に7店舗。コープ商品をはじめ、産直野菜や生鮮食品など「より良いものをより安く」をキーワードに地域のニーズに合わせた品ぞろえを展開しています。資源回収やプラスチック製品の削減など、環境に配慮したお店づくりを推進しています。一部店舗には調理室や集会室などの組合員施設があるのも特徴です。

エキナカに、コープのお店

JR大分駅構内「豊後にわさき市場」内のテナントとしてコープ大分駅店を出店しています。JRを利用する通勤客や駅周辺にお住まいの方から支持の厚い店舗です。



お買い物サポートカー事業

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を運行しています。ご自宅からお店まで車で片道およそ20分圏内の利用者を、専用車両でコープおおいたのお店まで送迎し、お買い物を楽しんでいただくサービスです。



移動店舗販売事業

生鮮食品から日用雑貨まで多様な商品を載せた移動店舗販売車両が大分県各地を回ります。商品は出発前に職員が積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応じて品揃えしています。利用者と職員のコミュニケーションの中ではぐくまれる信頼関係と「暮らしをより良いものにしたい」という双方の気持ちを大切にしています。



— 店舗 —



- コープ別府店
- コープ南大分
- コープ大分駅店
- コープ下郡
- CO・OPふらいる
- コープうすき
- コープつくみ

事業案内



生活サービス事業

くらしのさまざまなニーズに応じて。

高齢者施設の運営やちょっとしたお困りごとの支え合い、保障の相談など、くらしを支援するさまざまな事業を展開しています。

福祉事業

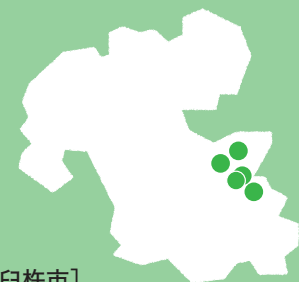
「コープに、いつまでも安心して自分らしくくらす場所があったら」そんな組合員の声から、福祉事業所を臼杵市に3カ所、大分市に2カ所開設しています。昨今では臼杵市にはサービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)」、大分市には小規模多機能ホーム「にじいろ下郡」を展開し、サービスの幅が広がりました。

生活支援
(スマイルさぽーと事業)

「コープくらしの助け合い活動」を2014年度に事業化したスマイルさぽーと。お庭の草取りや掃除、食事づくりなど、くらしのちょっとしたお困りごとを組合員どうして助け合い、支え合う活動です。各地域に研修を受けたサポーターが在籍し、支援を必要とする利用者のくらしに寄りそっています。



—— 福祉事業所 ——



- 【臼杵市】
 ●にじいろ ●にじいろ2号館
 ●サービス付き高齢者向け住宅「彩(いろどり)臼杵」
- 【大分市】
 ●にじいろ二目川 ●にじいろ下郡

共済事業

コープ共済連・こくみん共済coopから受託し、宅配や店舗で保障をおすすめしています。組合員の声から生まれたさまざまな保障は、時代のニーズに応え、現在も進化を続けています。



関連・子会社

コープハウジング大分

コープ自由設計の家屋建築、外壁塗装や水まわりなどの住宅総合リフォーム



水まわり相談会

有限会社 ヒューマック大分

各種保険取り扱い、プレイガイドやドローン航空学校の運営など



ドローンスクール

株式会社
コープサービスおおいた

コープおおいたの宅配業務受託、弁当宅配、介護食宅配、宅配水、その他請負事業



配達の様子

コープキッズおおいた

保育園や放課後児童クラブなどの児童福祉施設の運営、行政・各団体と連携した子育て支援



発表会

ハートコープおおいた

就労継続支援A型事業所の運営や作業受託などの障がい者福祉事業



菌床しいたけの収穫体験

夢ファームおおいた

農産青果物の生産・流通・販売、新規就農支援、地産地消の推進



食育・体験農場



創立70周年を迎えました

コープおおいたは前身の臼杵市民生活協同組合、大分県民生活協同組合の歴史を経て、2022年に創立70周年を迎えました。これもひとえに組合員、地域住民、行政、お取引先企業のみなさまのおかげです。いつも生協の事業、活動にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

全体企画

8/27 JR大分駅前イベント



盛り上がりを見せたさまざまなステージ企画



福島の桃や地酒、銘菓を取り扱う福島物産展企画



ザ・キャビンカンパニーの「コープ商品の詩」サイン入り冊子を配布

10/12 組合員親睦ゴルフコンペ



大分東急ゴルフ場で開催し、組合員69名が参加

9/24 文化企画



映画「弁当の日」の上映と食育・子育てに関する講演会を開催



「弁当の日」にちなんで理想の弁当の絵コンテストを実施

11/5 うみたまごdeナイト



夜の大分マリンパレス水族館「うみたまご」を貸し切り、組合員70家族を招待

11/9 記念式典



他生協やお取引先をお招きし、これまでの感謝を伝える会を開催

5/14 ウォークラリー



クイズやゲームをしながら田ノ浦ビーチをウォーキング

9/3 ドローンアタックプロ



ヒューマック大分共催により県下各地で予選会が開催され、上位者が集う

エリア企画

9/10 ボウリング大会



畑中センターエリア

10/10 二目川70にチャレンジ!



二目川センターエリア

10/23 映画上映会



日出センターエリア

10/28 別府マルシェ



日出センターエリア

10/30 佐伯わくわくフェス



三重センターエリア

11/3 うすき千本引きくじ



三重センターエリア

11/6 ボウリング大会



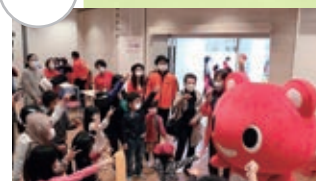
宇佐センターエリア

11/13 津久見エンジョイ!



三重センターエリア

11/19 感謝祭 in 日田



日田センターエリア

11/20 ミニバレーボール大会



宇佐センターエリア

11/26 ネイチャーウォーキング



三重センターエリア

12/3 感謝祭 in 玖珠



日田センターエリア

コープおおいたと地域の歩み



1952年
5坪の店舗からはじまった
前身の臼杵地区
消費生活協同組合



1965年
組合員の
声から
生まれた
コープみそ



1973年
大分県民
生活協同組合に
改称



1988年
牛乳パック
回収活動を開始



1998年
生活協同組合
コープおおいた
に改称

1999年
宅配の
個人配達を開始



2011年
弁当宅配・
移動店舗販売を開始



2017年
店舗無料送迎
お買い物サポートカーを
開始



2022年
小規模多機能ホーム
にじいろ下郡開所

組合員数(人)



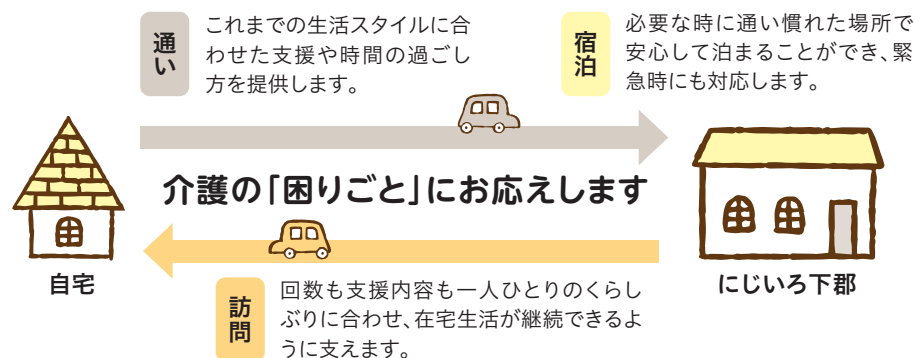


FEATURE
特集
2

小規模多機能ホーム にじいろ下郡

コープおおいたが行う小規模多機能ホームとは

安心できる居場所として、集える場所として、24時間365日頼れる存在として「小規模多機能ホーム にじいろ下郡」を開所しました。あなたらしい暮らしを一緒に考えながら、自宅での生活を継続するために「通い」「訪問」「宿泊」を柔軟に組み合わせて支えます。



私たちの理念

共に歩み 想いをカタチに

ご利用者様、ご家族様、職員、地域の方が共に寄りそいながら、自分らしいさまざまな想いをカタチにできるお手伝いをします。

私たちが大切にしている行動

心と体が動く支援を行います。気づく力、見極める心を持ち支援します。

スローガン

利用安心度地域No.1

高齢者の安心を支えるサービスを提供する
バリアフリー構造の住宅です。



部屋①（洋室）



部屋②（和室）



宿泊室は洋室と和室をご用意しています。ご自分の時間を大切にできる環境です。

廊下



廊下は広々と明るく、どの部屋からもスムーズに移動したい場所へ行ける動線設計となっています。

お風呂



一人ひとり入れる量数ヒノキのお風呂を2室をご用意しており、ゆったりご利用いただけます。



居間



居間は木と畳のぬくもりたっぷりで落ち着く雰囲気です。体格にあった机と椅子を用意し、正しく座ることを重視していくなど『生協10の基本ケア』をととして日々の暮らしをサポートしていきます。



FEATURE
特集
3

生産者
訪問レポート

Producer
visit
report

40年以上、組合員と つながり続ける五清同志会

豊後大野市 五清同志会
ごせい どうしかい



つくる責任 つかう責任

コープおおいたは、持続可能な消費と生産のサイクルを確保します。



里芋は中心の親芋に子芋が付き、子芋に孫芋が付く。

コープおおいたの『甘藷(さつまいも)』と『里芋』は、豊後大野市大野町の産直生産者『五清同志会』によって生産されています。『五清同志会』とは、もともとイチゴを中心にスイカやさつまいも、里芋などを研究熱心に作っていた個々の生産者が「安心して食べられる、おいしい作物をつくろう」と思いをひとつに結成した生産者グループです。「産直」というシステムがまだ一般的ではなかった時代に結成された同会は、まさに産直生産者の草分け的存在。現在は4生産者が所属しています。



阿蘇山、祖母山、くじゅう山に見守られた畑。

同会は結成当初から、油かすや米ぬか、骨粉、鶏ふんなどの有機肥料に土やもみがらを混ぜ、毎日、繰り返し作業を行って発酵させた手づくりのぼかし肥料を使用していました。ぼかし肥料を土に混ぜ込み、健康な土壌をつくることで、化学肥料の使用を極力抑える栽培方法は、今でこそ広く知られていますが、まだ実践している農家が少なかった頃から、みなさんは研究を重ね、栽培のノウハウを確立していきました。

さつまいもは5月に植え付けを行い、9月下旬より生育の進んだものから収穫して、貯蔵庫で50～60日熟成させたのちに出荷。収穫後は秋から冬にかけて土を掘り返し、施肥については細心の注意を払うことで、丁寧な土づくりを行っています。また、品質の安定した生産を行うため、毎年、種いもを更新しています。



『五清同志会』のみなさん。左から、大木千代子さん、大木正高さん、伊東幹雄さん、東田幸芳さん、後藤安征さん、東田恵美子さん。



里芋畑にダムから引いた水を散水している様子。



さつまいもは収穫後、温度・湿度変化の少ない貯蔵庫で約50日熟成させてから出荷している。

豊後大野市大野町は、大野川水系のダムから引いた良質な水を畑に散水できるかんがい設備が整い、水分が多く水はけのよい土壌に恵まれていることも、良質な作物が育つ大きな理由です。

生産者のみなさんはこれまでもを振り返り、「組合員のみ

なさんがずっと応援してくれた」「コープおおいたとは良い関係を築いてきた」と、お話ししてくださいました。

約40年という長きにわたり築いてきた貴重な関係を再確認し、生産者のみなさんへの感謝の気持ちを新たに、ぜひ利用してみてください。

甘藷(さつまいも)

コープおおいたの店内で大人気の焼きいもは、主に『五清同志会』のべにはるかを使用しています。



●べにはるか
糖度が高く、ねっとりした食感。焼きいもやスイートポテトにおすすめ。



●べにまさり
さっぱりした甘さで、しっとりとした舌触り。焼きいもやふかしいもにおすすめ。



里芋



●大和(通称:白芽)
色白できめ細かく、クセが少ない肉質。ぬめりや粘りは程よく、煮物や蒸したり、揚げ物などにおすすめ。

●セレベス(通称:赤芽)
表面が赤みがかったのが特徴。肉質がしっかりしているため煮崩れしにくく、煮物などにおすすめ。



コープおおいたの「産直」とは

単なる産地直送ではなく、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」です。

産直3原則

- ①生産者・産地が明らかであること
- ②栽培・肥育方法(農薬・肥料・飼料など)が明確であること
- ③生産者と組合員が交流できること

産直マーク

野菜・果物・米については、「作物栽培慣行レベル基準」に対してどれだけ農薬を削減して生産されているかを★の数でお知らせしています。

・野菜
・果物
・米



農薬を使用せずに生産



農薬を50%以上削減



農薬を30%以上削減



産直3原則を充たして生産

・畜産
・たまご
・水産



TOPICS

トピックス

福島支援

東日本大震災から12年が経過しました。コロナ禍により制限されていた交流、学習の機会も徐々に取り戻すことができ、この間の空白を埋めるような新たな企画も実施することができました。



■大分の小学生18名が福島県新地町に招待

2022年8月21日～23日に大分の小学校5・6年生の18名が福島県新地町を訪れました。コロナ禍前は「ふくしまっ子応援プロジェクト」として福島の子どもたちを大分に招いていましたが、2022年度は新地町より大分の子どもたちをご招待いただき、復興の様子や自然、文化などを学びながらアウトドアも楽しみました。



■3年ぶりに職員が福島県を訪問

東日本大震災から毎年コープおおいたの職員が学習のために福島県を訪問していましたが、コロナ禍により中断を余儀なくされていました。2022年は3年ぶりに訪問を再開。新入協職員を中心に、実際に被災地を目で見て肌で感じて、当時や復興の様子、福島の農産品の安全性などを学びました。



■コープおおいた70周年記念イベントで福島物産展を開催

2022年8月27日にJR大分駅前広場で開催された記念イベントでは、桃や地酒をはじめとした福島県産品を販売しました。中には午前中に完売する商品もあり、福島の商品の安全性とおいしさを大分県の方に広くお知らせする機会となりました。

災害支援

2020年に発足した災害支援先発隊(通称:CODRA)は、有事の際にいち早く被災地へ駆けつけ、どのような支援がどれくらいの期間必要なのか等を迅速に判断し、支援活動につなげます。平時から実技研修や防災・減災に関する学習を重ねています。



コープおおいた災害支援先発隊
CODRA
コ ド ラ

Coop		コープ
Oita		おおいた
Disaster		災害
Recovery		復興
Assistance		支援



■2022年9月、台風14号発生時の支援

2022年9月、台風14号の被害を受けた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。コープおおいたでは9月23日にCODRAを派遣し、由布市で泥出し作業を支援しました。コロナ禍により県外からのボランティアが少ない中でしたが、日頃から関わりを続けているからこそできる活動となりました。



■有事に備えた平時の研修

年に数回、大分県社会福祉協議会が主催するボランティア活動研修にCODRAの一部メンバーが参加しました。ボランティアとして参加するだけでなく、ボランティアセンターを運営する研修も開催され、主体的にどのような支援が可能なのかを考えるきっかけとなりました。



■気軽にできる、支援の一步

大分県内での災害発生時や、日本生活協同組合連合会から募金の呼びかけがあった場合には組合員向けに募金活動を実施します。宅配事業ではOCR注文書に希望の金額と数量を選択することで注文商品代金と一緒に引き落としされ、任意の募金を寄せることができます。

2022年度にコープおおいたで実施した募金活動は以下の通りです。

- ウクライナ支援募金 2022年3月14日～7月29日
- トルコ・シリア地震 2023年2月27日～

オンラインで つながる

コロナ禍によりアイデアを持ち寄り、新しいツールや方法でつながり、まなび、楽しむスタイルが確立しつつあります。



産地交流会

コロナ禍前は産地を訪れ、直接交流を深めることができていましたが、近年はオンラインツールや、動画サイトを用いて学びの場となることが増えました。事前に商品を参加者のご自宅にお届けすることで、生産者のこだわりを聞きながら実際に商品を使ってみるすることができます。



オンライン商品学習会 ～(株)クラブコスメチックス編～

コープ基礎化粧品を製造している(株)クラブコスメチックス様にご協力いただき、オンライン上で工場見学やクイズを通して交流しました。また、実際にお手元に試供品をお届けすることで店舗・宅配で取り扱っている化粧品の正しい使い方を学び選択肢の幅が広がりました。



オンラインお茶会

誰でも気軽に参加できるオンラインお茶会を開催しました。その中で在宅が増え、運動する機会が減る時期に、リンパケア講座を開講しました。講師が画面上でお手本やコツを見せながらすすめるため、自宅で自分のペースで楽しめる企画となりました。



総代会議

年3回開催する総代参加型の会議では、実際に店舗や集会所に集まって開催する方法に加えて、オンラインでの会議形式も開催しています。日中ではお仕事などで参加できないという方にも、夜間や土日に開催しており参加しやすいためご好評いただいています。

子育て支援

子どもたちの豊かな心を育み、親子のコミュニケーションをサポートします。



はじめてばこ

「はじめてばこ」は、これからたくさんの「はじめて」に出会う赤ちゃん、ママ、パパを応援するため特製の「童謡カード」やさまざまな企業からのプレゼントを詰め合わせています。箱の中のプレゼントは、時期や協賛企業によって変わります。コープおいたでは、地域社会貢献と子育て支援の取り組みとして、箱詰め作業と各ご家庭への配送を担当しています。箱詰め作業は、グループ会社の(株)ハートコープおいたが担い、働き甲斐とやりがいの創出へとつながっています。



ベビカフェコープ

育休取得中の従業員とそのお子さんが集まり、子育ての様子や、「保活(保育園に入るための保護者の活動)」について交流し、育児時短勤務中の先輩から子育てについてや、どのような働き方をしているのかを伝えました。育休明けの勤務や必要な書類など不安なことを解消することができ、子どもたちのかわいい笑い声とママたちの元気な声が聞こえる、和やかな会となりました。



ふれあい体験農場

九重町では田植えと稲刈り体験を、豊後大野市清川町では畑の種まきや収穫などを体験しています。実際に体験することで食べ物がどのようにして育てられて家庭に届き、調理されて食卓に並ぶのかを、親子で学んでいます。



県との子育て交流会

大分県と結ぶ地域包括連携協定に基づき、大分県福祉保健部と共に、現役のお母さんと行政が子育てサービスについて意見交換できる交流会を開催しています。



子育て講演会

毎年開催している講演会では、今回は「子どもが伸びる子育て」をテーマに開催しました。日常を振り返るワークや、子どもを注意する際の方程式、子どもに思いが届きやすくする方法を学びました。また、子どもを伸ばすために、到達点だけほめるのではなく成長した過程を認めて言葉で伝えることを教えていただきました。

環境

持続可能性が脅かされている
世界を変えるために

専務理事 江藤 隆康



標題は、日本生活協同組合連合会が提起している「生協の2030環境・サステナビリティ政策」に記載されている一文です。毎年、異常気象による被害が列島各地から報告されていることは、多くのみなさんの記憶にあると思います。被害ではありませんが、今年の桜の開花はどこも例年より早く、北に行くほど前倒しとなり、2週間近く早くなった現象は、異常気象の一例といえるのではないのでしょうか。今後も、過去最多や、最速などの事例が多く発生することが予想され、次世代に住みやすい環境の日本を無事に渡すことができるのか、一人ひとりが考えて行動することが求められています。

さて、日本生活協同組合連合会が「コープSDGs行動宣言」を採択して5年が経過し、「SDGs」という言葉の知名度も低く、定着していない状況から今日、生活の中で意識される場面も増えてきました。しかしながら、その間にも継続したCO₂排出の削減度は低く、産業革命後の気温上昇を1.5℃以内に抑える「1.5℃目標」までに残るカーボン

バジェット(二酸化炭素排出上限)は8%ともいわれています。しかも、努力目標である限り、抑制の動きが加速するのはなかなか難しいことと思います。COP(気候変動枠組条約締約国会議)での議論が実現に結び付きにくい状況に、幾分焦りを感じますが、微力ながらも、わたしたちにできる行動を地道に継続し、その輪を広げていくことで、役割を果たしていくことをあらためて決意するところです。

サステナビリティ政策の行動計画の10番目にあたる「取り組み状況を積極的に公開し、社会との対話をすすめます」にあるとおり、例年コープおおいたレポートとして、多くのみなさんにわたしたちの1年毎の活動をお知らせしてきました。このレポートを見て、今まで以上に個々の意識が高まっていくこと、また、新たに取り組みに参加していただける方が増えていくことを願っています。是非、「一緒に」未来の子どもたちのために豊かな地球を守る取り組みを広げていきましょう。

「生協の2030環境・サステナビリティ政策」

10の行動指針

関連するSDGs目標



2030環境目標設定に向けた取り組み

2017年5月、日本生活協同組合連合会2030目標検討委員会は、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対し、SDGsやパリ協定など国際的な枠組みを踏まえた温暖化対策の方向性と、生協が目指すべき削減水準について、以下の「提言」にまとめました。

- ① 自生協で2030年温室効果ガス削減計画を策定し実践を開始すること
- ② 省エネ対策を徹底し、設備や車両を環境の視点から見直していくこと
- ③ 再生可能エネルギーの電源開発に生協全体で取り組むこと
- ④ 組合員と共に、学び、共感を広げていくこと
- ⑤ 地域と共に持続可能な社会をつくる動きを作り出していくこと

環境基金委員会報告

コープおおいた本部事務所から排出される古紙などや各店舗のリサイクル食品トレー・有料レジ袋の益金を「環境基金」として積み立て、環境活動や助成事業に取り組んでいます。



大分県地域環境保全基金寄付金

大分県と締結している「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」にもとづき、有料レジ袋で得られた益金の一部を、環境保全の取り組みに役立ててもらう目的で大分県へ毎年お贈りしています。



絵本の贈呈式

環境基金の一部を使用し、県内の幼稚園や保育園へ環境をテーマにした絵本を贈呈しています。モノを大切にする心を育む環境教育の充実のために取り組んでいます。

地球温暖化防止の取り組みと結果

環境方針「各事業所におけるエネルギー(電力、ガス、車両燃料など)使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO₂排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制します。」を重点に、事業と環境の連動に取り組みました。2022年度のCO₂総排出量は3,804(t-CO₂)となり、2021年度の4,414(t-CO₂)から13.8%削減できました。

●2022年度の取り組み結果(供給高1億円あたりのCO₂排出量)

		使用量	単位	CO ₂ (t-CO ₂)	供給高	供給高1億円あたりのCO ₂	2021年度参考値
電力	九州電力※	8,665,311	kWh	2,591	189.62 (億円)	20.06 (t-CO ₂)	23.12 (t-CO ₂)
燃料	灯油	1,773	m ³	4			
	ガス	9,119	m ³	27			
車両 燃料	ガソリン	265,286	L	615			
	軽油	212,331	L	548			
	LPG	6,026	m ³	18			
合計				3,804			

※九州電力の基礎排出係数が昨年度と異なるため、削減割合において前年差が大きく表れています。

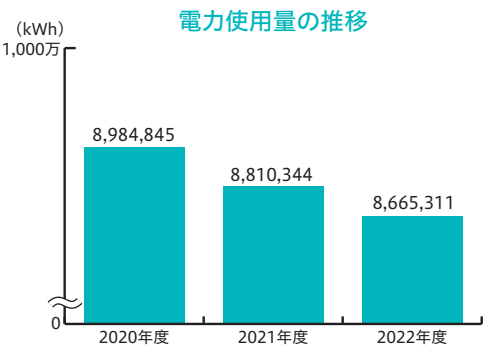


電力使用量削減の取り組み

- 主な取り組み
- ①空調・冷設室外機の高圧洗浄による空気吸入量アップ
 - ②空調・冷設室外機への散水噴霧により吸入空気温度低減
 - ③冷蔵・冷凍室外機のショートサーキット防止対策

電力使用量の推移

2022年度の電力総使用量は8,665,311kWhとなり、2021年度比で1.6%の削減となりました。



燃料使用量削減の取り組みと結果報告

- 主な取り組み
- ①安全エコドライブの学習と実施
 - ②安全に確実な配送を基本に、より効率的なルート of 工夫

供給高1億円あたりのCO₂排出量の推移

2022年度の車両燃料使用量は増加し、CO₂排出量は1,181 (t-CO₂) となり、2021年度対比3.1%増加となりました。合わせて、供給高1億円あたりのCO₂排出量も3.9%増加しました。車両の入れ替えに伴うガソリン車の増車が主たる要因です。

※宅配事業は配送委託のため(株)コープサービスおおいと(株)流通サービスの数値も含みます。

全体		2021年度		2022年度	
		実績	CO ₂ (t-CO ₂)	実績	CO ₂ (t-CO ₂)
ガソリン(L)	CO ₂ 排出量	232,290	539	265,286	615
軽油(L)	CO ₂ 排出量	217,065	560	212,331	548
LPGガス(m ³)	CO ₂ 排出量	15,628	47	6,026	18
合計	CO ₂ 排出量	464,983	1,146	483,643	1,181
前年比		100.2%	99.5%	104.0%	103.1%
供給高(億円)	1億円あたりCO ₂	190.85	6.00	189.62	6.23
前年比		98.1%	101.4%	99.4%	103.9%

太陽光発電レポート

2022年度の総発電量は675,996kWhとなりました。

	2021年度(kWh)	2022年度(kWh)
コープ南大分	205,480	206,941
コープ下郡	184,989	180,657
三重センター	56,028	56,281
宇佐センター	60,002	59,815
日出センター	57,657	58,082
コープ別府店	57,564	58,401
コープうすき	54,053	55,819
合計	675,773	675,996

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2022年度も多くの組合員みなさんに、コープおおいとのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2022年度 回収量の報告

古紙類(牛乳パックとカタログ等)

約100万5,202kg

前年比104.8%

回収量の7割がトイレトペーパーやティッシュの実質の原料となります。コアノンロール130m(S)1個276gで換算。約254万9,425ロールが再生されました。



タマゴパックの回収量

約5,712kg(約28万5,600パック)

前年比103.5%

タマゴパックは、古紙や木屑と一緒にリサイクルされてRFPという固形燃料に再生されます。RFPはさまざまな工場でボイラー燃料として利用されています。



プラスチックトレイの回収量(店舗)

約2,456kg(約49万1,200枚)

前年比107.4%

枚数は1枚平均5gとして換算。回収されたトレイは、一旦溶かされてエコトレイになります。店舗で使用している一部のトレイはリサイクルされたエコトレイです。



マイバッグ持参人数(店舗)

367万1,123人

前年比97.8%

マイバッグ持参率86.7%。レジ袋1枚に原油10ml(原料+製造エネルギー用)が使用されています。



ペットボトルキャップ回収量(店舗)

約2,786kg(約111万4,400個)

前年比103.3%

回収されたペットボトルキャップは、回収業者を通じてプラスチックのリサイクル原料として再生され、トレイや園芸用品になります。



集品袋・カタログセット袋回収量(宅配)

約7,949kg(264万9,666枚)

前年比120.1%

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。

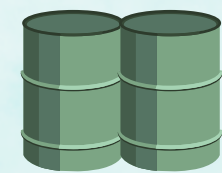


廃油回収量(店舗)

約4万1,356ℓ

前年比97.3%

ドラム缶に換算すると、約103本分に相当。バイオディーゼル燃料や一部はせっけんに生まれ変わっています。



※コープおおいとでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。

※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置、廃油の回収ができず対象外となります。 ※イラストはイメージです。